

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|---------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を体験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 医薬保健学基礎 | 保健学、およびチーム医療について学び、保健学類の各専攻の内容を理解する。チーム医療における各職種の間、役割を理解できるようにする。 | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | | |
| | 生体の構造 | 1. 人体の骨関節系を理解できる。 2. 人体の骨格筋系を理解できる。 3. 人体の神経系を理解できる。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 生体の機能 | 1. 生命の最小単位である細胞の構造と機能を理解する。 2. 細胞間でどのような情報交換がなされているのかを理解する。 3. 神経細胞はどのようにして情報を伝えるのかを理解する。 4. 内臓機能は自律神経系と内分泌系によりどのように調節されているのかを理解する。 5. 体の中を循環している血液の役割を理解する。 6. 個々の細胞が生きていくために必要な酸素を取り込む仕組みを理解する。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 人体構造学演習 | 1. 人体の内臓系を理解できる。 2. 人体の脈管系を理解できる。 3. 組織学の初歩を理解できる。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 人体構造学実習 | 1. 正常解剖体を用いて、具体的かつ総合的に人体の構造を理解できる。 2. 人骨、脳脊髄、切断四肢を用いて、各臓器を個別に理解できる。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|----------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究者を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 人体機能学演習Ⅰ | 1. 心臓の拍動する仕組み、およびその調節機構を理解する。 2. 血液循環の仕組み、およびその調節機構を理解する。 3. 腎臓で尿が作られる仕組み、および、尿生成により体液組成が調節される仕組みを理解する。 4. 消化管運動および消化液分泌による食べ物の消化、および栄養素吸収の仕組みを理解する。 5. 体に必要な栄養素が体内でどのように代謝されるのかを理解する。 6. 体内での熱産生と熱放散のバランスをとることにより体温が維持される仕組みを理解する。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 人体機能学演習Ⅱ | 1. 骨格筋の収縮メカニズムを理解する。 2. 運動が脳のどの部位でどのように制御されているのかを理解する。 3. 体性感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚の仕組みを理解する。 4. 意識レベルや睡眠リズムがどのように調節されているのかを理解する。 5. 恐れや怒りなどの情動や本能行動を引き起こす仕組みを理解する。 6. 記憶・学習、認識、言語、思考などの脳の高次機能の仕組みを理解する。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|---------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 人体機能学実習 | 1. 実験に頻りに使用される機器(オシロスコープや刺激装置など)の使い方をマスターする。 2. 興奮伝導の性質およびその仕組みを理解する。 3. 骨格筋の収縮の性質およびその仕組みを理解する。 4. 心筋細胞の電気活動と収縮との関係を理解する。 5. 心電図の各波形が何を表しているのか、また、心電図から何がわかるのかを理解する。 6. 誘発筋電図の発生メカニズム、および、それから何がわかるのかを理解する。 7. 皮膚の触覚は体の部位により精度が異なることを理解する。 8. 視野の性質(大きさ、色による違い、盲点の存在)を理解する。 9. 感覚受容から反応(骨格筋の収縮)までにかかる時間の意味を理解する。 10. 肺気量の大きさや呼吸機能を調べる方法の原理を理解する。 | | | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| | 基礎運動学 | 身体動作に必要な関節の構造を理解し、筋、神経の関与について学習する。筋力と体力の違いを区別し、医療としての介入方法について知識を得る。小児の発達のパターンを知り、発達の遅れとの違いおよび運動学習の導入の意味について理解する。引き続き開講される運動学実習の基礎知識を養う。 | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |
| | 運動学実習 | 表面筋電図で、筋活動の評価ができるようになる。等速性運動評価機器、ピンチ計やハンドダイナモメータでの筋力評価ができるようになる。重心動揺計での測定技術の習得。自転車エルゴメータによる呼吸循環器系の反応を捉えられるようになる。関節運動をゴニオメータを使用して評価できるようになる。運動学的解析を自ら計画し施行できるようにする。 | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|---------------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|---|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究者を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 医用物理学実験 | 研究目的を立て、それを達成するため、いかなる実験を行えばよいか。また、得られたデータはどの程度信頼でき、結果からどのようなことが言えるのか等、研究を行う上で最低限知っておかなければならない基礎的な知識を学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 生体物質化学実験 | 1. 自分自身で実験を実行する。多くの実験課題は1人で実行できるよう準備してある。 2. マニュアル通りに手を動かすのではなく、よく考えながら注意深く観察して実験する姿勢を習得する。さらに考えたことや観察したことを適切な文章で表現できるようトレーニングする。重要な物質、現象、反応は、レポートの課題として取り上げてある。 3. 自分の実験結果を合理的に、かつ他人にわかりやすく整理する技術を習得する。基本的な解析・整理技術もレポートの課題として取り上げてある。 | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 生命科学実験 | 生きたままの生物材料を用いて生命現象を理解できる。 | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | リハビリテーション医学概論 | 1. リハビリテーションの概念を理解できる。 2. リハビリテーション医療を行う上での医療技術者の役割を理解できる。 | | | | | ◎ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 人間発達学 | 新生児期から成青年期までの認知的、情緒的、社会的発達を総合的に理解できる。 | | | | | | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | 臨床医学入門 | 1. 患者との関係、医療倫理、診療録の記載方法などを修得する。 2. 主な症状の病態および鑑別診断を理解できる。 3. 基本的な身体所見の取り方および病態との関係を理解できる。 4. 臨床疫学、大規模臨床試験を基にした科学的根拠に基づく医療を理解できる。 5. 医療制度および現在直面する医療問題を理解できる。 | | | | | ◎ | ○ | ◎ | | | | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|-----------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 呼吸循環器病態学 | 1. 心機能の調節系と心不全の病態を理解できる。 2. 動脈硬化の成因と冠動脈疾患の病態を理解できる。 3. 心臓電気生理由と不整脈の成因を理解できる。 4. 心疾患と治療の考え方を理解できる。 5. 呼吸機能および呼吸器疾患の病態を理解できる。 | | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 発生発達病態学 | 小児期に多い疾患を理解し、専門分野での疾病理解に役立てることができる。 | | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 神経病態学 | 1. 神経症候学と神経系の局在診断を理解できる。神経系の各種疾患に見られる症状・障害と病態を理解できる。 2. 各疾患の定義、臨床症状、臨床経過、治療原則を理解できる。 3. 急性期、亜急性期、回復期、維持期それぞれのリハビリテーションにおける脳神経疾患の病態、ゴール、禁忌事項などを理解し、関連事項を習得する。 | | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 感覚運動器系病態学 | 1. 整形外科疾患の病態を理解し、的確な評価と治療を行うための基礎知識を習得する。 2. 治療上のリスクを理解した上で、効率的な加療方法について習得する。 | | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | ○ | | |
| | 基礎病態学 | 1. 生物の基本単位である細胞、そして機能単位としての組織レベルから病気を理解できる。 2. 疾患の症状や治療についての科学的、医学的背景を理解できる。 3. すべての医学研究の基礎である病理学の考え方に接することで、将来の教育・研究者としての素養を習得する。 | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | |
| | 運動器系病理学 | 1. 運動器の疾患について、その病態、症状を理解できる。 2. すべての医学研究の基礎である病理学の考え方に接することで、将来の教育・研究者としての素養を習得する。 | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|---------|---|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|---|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 老年期病態学 | 1. 各器官の正常解剖および生理機能と対比させて、高齢者における特性(老化の影響)を理解できる。 2. 高齢者における疾患の病態、診断・治療理論を理解できる。 | | | | | | ◎ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 精神障害学 | ・精神症状のアセスメントができる。 ・精神疾患、精神科治療の基礎知識を修得する。 | | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | |
| | 外科病態学 | 1. 各器官の解剖、生理機能の理解のもとに、外科的疾患の病態、診断、治療を理解できる。 | | | | | | ◎ | ◎ | | | | ○ | | |
| | 理学療法学概論 | 1. 医学的リハビリテーションに関する知識を修得する。 2. 理学療法の位置づけ、歴史的背景を修得する。 3. 理学療法の業務内容を修得する。 4. 理学療法士法の内容を修得する。 5. 理学療法士の職種(国内外情報)、倫理、研究などを修得する。 | | | | | ○ | | ◎ | ○ | ○ | | | | |
| | 医療統計学 | 1. 統計学の基本理論を身に付ける。 2. パソコンソフト(Excel等)を用いた実際のデータ解析の方法の習得を目指す。 | | | | | ○ | | | | | | | | ◎ |
| | 機能診断学 | 1. 各種検査・測定の方法、目的、意義および基本手技を理解できる。 2. 障害像の把握に必要な検査・測定方法を選択できる。 3. 情報の整理と専門用語を用いた記録の重要性を理解できる。 | | | | | | | | ◎ | ○ | ◎ | | | |
| | 機能診断学演習 | 1. 理学療法評価の目的、意義を理解できる。 2. ICFの概念を理解できる。 3. バイタルサインの評価方法を理解できる。 4. 形態測定の目的、意義および基本手技を理解できる。 5. 関節可動域測定の目的、意義および基本手技を理解できる。 | | | | | | | | ◎ | ○ | ◎ | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | |
|---|------------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | |
| | 機能診断学実習 | 1. 各検査・測定方法の目的および意義を理解し、基本手技を習得する。 2. 障害像の把握に必要な検査・測定方法を選択できる。 3. 疾患別評価に応用できる能力を習得する。 | | | | | | | | ◎ | ○ | ◎ | | |
| | 理学療法学セミナーⅠ | 1. 理学療法評価のための適切な検査・測定を選択できる。 2. 理学療法評価のための検査・測定を適切に実施できる。 3. 動作分析を行うことができる。 4. 得られた検査・測定結果などから問題点を抽出できる。 5. 目標を設定し、理学療法プログラムを立案できる。 6. 理学療法評価を報告書としてまとめることができる。 | | | | | | | | ◎ | ○ | ◎ | | |
| | 高次脳機能障害学 | 1. 各種の高次神経機能障害の特徴を学ぶ。 2. 各患者さんにあった評価法を選択できる。 3. 評価内容を解釈できる。 | | | | | ○ | | ○ | ○ | | ◎ | | |
| | 運動療法学 | 1. 理学療法の主な手段である運動療法の原理・原則を理解できる。 | | | | | | | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 運動療法学実習 | 1. 運動療法学で学んだ運動療法の原理・原則の手段を習得する。 | | | | | | | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 日常生活活動学 | 1. ADLおよびQOLの概念を理解できる。 2. 基本的ADLと生活関連活動との関連を理解できる。 3. ICFの目的・特徴を理解できる。 4. ADL評価表の特性を理解できる。 5. 代表的疾患のADL特性を理解できる。 | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 日常生活活動学実習 | 1. 基本的動作の動作分析を習得する。 2. 車いす操作の指導方法を習得する。 3. 各種ADL評価表の特性を理解できる。 4. 代表的疾患のADL特性を理解できる。 | | | | | ○ | | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|---------------|---|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法を各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 骨・関節系理学療法学 | 整形外科疾患を中心とした理学療法手段の一般的な方法や手順について、 1. その目的や意義を理解できる。 2. 適応を理解できる。 3. 論理的背景を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 骨・関節系理学療法学実習 | 1. 整形外科疾患を中心とした理学療法手段の一般的な方法や手順について、臨床で適切に実施する基礎的能力を修得する。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 神経・筋系理学療法学演習 | 1. 神経・筋障害における機能障害の病態を理解できる。 2. 理学療法の臨床適用方法を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 中枢神経系理学療法学 | 1. 患者の障害像を理解できる。 2. 治療理論の基礎となる神経生理学的機構を理解できる。 3. 治療を行う際に必要な運動学習理論を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 中枢神経系理学療法学実習 | 1. 正常運動パターンを理解できる。 2. 異常運動パターンの原因を考察できる。 3. 神経生理学的治療法を理解し、習得する。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | スポーツ障害理学療法学演習 | 1. スポーツ障害の理学療法を組み立てることができる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 義肢装具学 | 1. 義肢の名称と分類を理解できる。 2. 義肢の適応、構成要素ならびにチェックポイントを理解できる。 3. 断端の管理方法を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 義肢装具学演習 | 1. 装具療法の目的・原則を理解できる。 2. 上肢・下肢・体幹・靴型装具の使用目的・種類を理解できる。 3. 疾患・障害に適応した装具を選択できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|-------------|---|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 物理療法学 | 1. 物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解できる。 2. 疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解できる。 3. 治療リスク及び事故防止方法を理解できる。 4. 基本的治療技術方法を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 物理療法学実習 | 1. 治療機器の操作を理解できる。 2. 物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解できる。 3. 多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 呼吸器系理学療法学演習 | 1. 呼吸障害を有する者に対する理学療法の位置づけ・役割を理解できる。 2. 呼吸障害を有する者に対する理学療法評価および理学療法介入を習得する。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 循環器系理学療法学演習 | 1. 心機能障害の評価の要点を説明できる。 2. 心機能障害者への理学療法介入における基本的な考え方を説明できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 代謝障害理学療法学演習 | 1. 糖尿病に対する理学療法の基本的考え方を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 小児理学療法学実習 | 1. 正常な運動発達について理解できる。 2. 発達障害児の基本的な評価について理解できる。 3. 脳性麻痺のタイプ別臨床像を理解し、評価・治療を理解できる。 4. 主要な小児特有の疾患について理解できる。 | | | | | | | | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| | 運動学習理学療法学演習 | 1. 身体運動、動作の分析によって得られた情報から、修正すべき箇所を指摘できる能力を修得する。 2. 運動学習の理論を治療に応用するために、その理論的背景を理解できる。 | | | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | | |
|---|--------------|---|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|--|--|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究者を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | | |
| | 障害者環境論 | 1. 生活環境とその評価・改善計画に関する知識を習得する。 2. 生活環境整備におけるリハビリスタッフの役割を理解できる。 3. 生活環境整備における障害別の注意点を理解できる。 4. 効果的な移動用福祉用具と生活環境整備の組み合わせを理解できる。 | | | | ○ | | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | | |
| | 地域リハビリテーション論 | 1. 地域リハビリテーションの必要性について理解できる。 2. 地域リハビリテーションに係わる医療福祉制度について理解できる。 | | | | ○ | | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | | |
| | 社会貢献論演習 | 1. 奉仕的活動の意義を理解できる。 2. 将来の医療人としての自覚を得ることができる。 | | | | ◎ | | | ○ | | | | | | |
| | 公衆衛生学 | 1. 健康についての自分なりの考え方をもち、 2. 健康現象の成立要件を理解し、その測定について理解できる。 3. 地域保健の課題と健康管理について理解できる。 4. 人々の健康を守り高めるための社会の仕組みを理解できる。 | | | | ◎ | | ○ | | | | | | | |
| | 臨床実習 I | 1. リハビリテーションを行っている病院および施設の役割やチーム医療の実現場面を見学する。 2. リハビリテーションにおける自らの役割を理解できる。 | | | | ◎ | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 臨床実習 II | 1. 病院・施設等の見学を通してリハビリテーション医療における理学療法士の役割を理解できる。 2. 病院・施設等の組織における理学療法部門の位置づけを理解できる。 | | | | ○ | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | |
|---|-------------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|---|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究者を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法士の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法を研究の方法論を理解し、経験する。 | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | |
| | 臨床実習Ⅲ | 1. 理学療法評価のための検査・測定が正確にできる。 2. 他部門からの情報収集ができる。 3. 得られた評価結果・情報などから問題点を抽出し、目標・治療プログラムを立案できる。 4. 症例をとおして各疾患の特性が集約でき、各部門の職員との円滑な交流ができる。 5. 理学療法評価を報告書としてまとめることができる。 | | | | ○ | | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | | |
| | 理学療法学英語 | 1. Realization of the above goal through gaining confidence to express oneself in English. | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ |
| | 卒業研究 | 1. 理学療法学の領域における研究を積極的に取り組める態度を身につける。 2. 理学療法学を科学的に考察できる能力を高める。 3. 研究の成果のまとめ方、発表の仕方を身につける。 | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | 理学療法学研究セミナー | 1. 各教員が取り組んでいる研究を知る。 2. 理学療法との関連性について理解できる。 | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | 理学療法学セミナーⅡ | 1. 総合臨床Ⅳで実際に担当した症例(疾患)について、文献研究をもとに評価、プログラムの妥当性について、科学的・論理的に再検討する。 2. 臨床研究の基本的能力を習得する。 | | | | | | | ○ | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 福祉行政経営演習 | 1. 将来職場等において業務プロセス・組織構造を改善する際の基礎的知識及びノウハウを学習できる。 2. 将来職場等において指導的役割を担う場合に必要とされる経営管理上の、さらには経営学一般の基礎的知識及びノウハウを学習できる。 | | | | | | | | | ◎ | | | ○ |
| | 理学療法管理論 | 1. 理学療法部門管理の基本的な方法論を理解できる。 2. チームワークの重要性を理解できる。 3. 人間関係に基づいた管理の重要性を理解できる。 | | | | | | | ◎ | | | ◎ | | |

| | |
|-----|---------|
| 学域名 | 医薬保健学域 |
| 学類名 | 保健学類 |
| 専攻名 | 理学療法学専攻 |

| 学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | 専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | | | | | | | | |
|---|--------------------|--|----|----|----|---|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|--------------------------------------|---------------------------|---|
| 1. 保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得して生涯教育を志向できる。 2. 医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3. 専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 4. 現代の多様な国民ニーズに応え有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 以上の能力を修得し、かつ各専攻の人材養成目標に到達することによって、医療社会に貢献できる者に学士(看護学)、学士(保健学)の学位を授与する。 | | | | | | 神経・筋・骨格・中枢神経・循環器・呼吸器などの疾患と障害像を理解し、それらに対する治療技術を修得し科学的思考能力を保持した臨床および研究人を育成する。また、医の倫理を理解し、人間の尊厳を重視し、人間に対する愛を持った医療人または理学療法士のリーダー的人材を育てる。以上の人材養成目標に到達した者に学士(保健学)の学位を授与する。これらの人材養成目標に到達するためには、以下の専攻の学習成果を上げることが求められる。 | | | | | | | | |
| 専攻のCP(カリキュラム編成方針) | | | | | | 専攻の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目) | | | | | | | | |
| 共通教育科目で社会人として必要な知識や教養を身に付け、専門基礎科目で人体の構造や疾病と障害、および医療福祉とリハビリテーションの理念を学習後、理学療法学の基礎、評価・治療学および研究法を、基礎医学と関連づけて学べるカリキュラムを編成している。臨床実習は段階的に編成し、施設見学、理学療法部門見学および評価実習を経験後、「臨床の場で理学療法の役割および責任を認識し、理学療法士として必要な専門知識と基本的技能を習得すること」を目標に掲げている。 | | | | | | 目標A 保健医療福祉とリハビリテーションの理念を理解する。 | 目標B 人体の構造と機能および心身の発達に関して理解する。 | 目標C 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程に関して理解する。 | 目標D 理学療法の概要および基礎的事項の理解を深める。 | 目標E 理学療法の評価法について理解し、各検査方法を修得する。 | 目標F 理学療法の各治療法を理解し、修得する。 | 目標G 臨床場面で理学療法を経験し、専門家としての基本的能力を修得する。 | 目標H 理学療法学研究の方法論を理解し、経験する。 | |
| 専攻のカリキュラム | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | | | | | | | |
| | 医療福祉オペレーションズリサーチ演習 | 1. 将来職場等において医療福祉サービスを作り出すしくみの管理及び当該サービスを提供するしくみの管理をめぐる諸問題を明確にできる。 2. これらの問題を解決するための意思決定を合理的に行うための基礎的知識及びノウハウを学習できる。 | | | | ◎ | | | | | | | | ○ |
| | 臨床実習Ⅳ | 1. 理学療法の基本的能力および技術を習得する。 2. 障害者との人間的関わりの重要性を理解できる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解できる。 4. 理学療法における意思決定の重要性を理解できる。 | | | | | | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | |